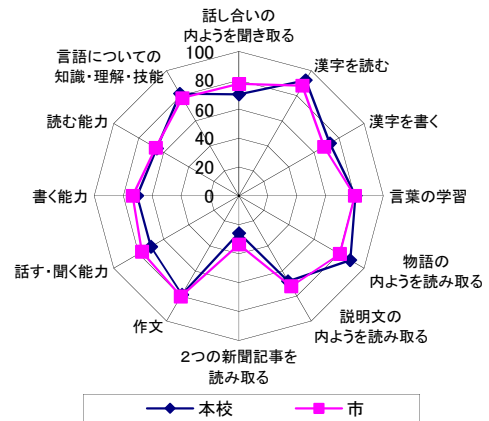


宇都宮市立岡本小学校 第5学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞き取る	70.2	77.4
	漢字を読む	92.4	87.9
	漢字を書く	72.7	68.1
	言葉の学習	80.7	80.2
	物語の内ようを読み取る	88.9	80.6
	説明文の内ようを読み取る	68.2	72.3
	2つの新聞記事を読み取る	25.8	33.5
	作文	78.8	80.3
観点別	話す・聞く能力	70.2	77.4
	書く能力	70.5	73.4
	読む能力	65.7	66.4
	言語についての知識・理解・技能	81.6	78.2



★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞き取る	・宇都宮市の平均正答率より下回っている。特に、司会者の工夫を聞き取ったり、話し手の意見の相違点を聞き取ったりする問題の正答率が低い。	・学習活動全体において、聞く態度の更なる育成を図り、話の内容や要点に注意しながら聞き取る力を高めていく。また、役割を交換しながら話し合いを行うことにより、それぞれの立場での工夫を身に付けさせる。さらに、観点を示して聞かせることにより、その共通点や相違点を聞き取ることができる力を養っていく。
漢字	・全体的には、宇都宮市の平均正答率より上回っている。特に、4年・5年の漢字の読みに関しては90%以上の正答率を示しており、十分定着していると言える。ただ、4年の漢字の書きに関しては、宇都宮市の平均より上回ってはいるが、正答率が72%とやや低い。	・いっそうの力の伸長を図るため、授業や朝の学習、家庭学習において、現学年の漢字の読み書きを練習させるとともに、前学年の配当漢字も計画的に練習させ、漢字を読んだり書いたりする力の定着を図る。
言葉の学習	・宇都宮市の平均正答率とほぼ同程度である。句読点の打ち方や接続語についてはおおむね理解していると言える。しかし、ことわざの使い方や文脈に沿った適切な漢字を使うことなどについては、正答率が低い。	・文脈に沿った適切な漢字を使うことに関しては、折に触れ復習できるように、国語の授業において繰り返し指導すること。ことわざについては、日常の会話の中で教師が意識して使ったり、取り上げて意味を調べさせる活動を取り入れたりして、触れる機会を多くし、定着を図る。
物語の内ようを読み取る	・宇都宮市の平均正答率より上回っている。特に、登場人物の心情を読み取る問題では、宇都宮市より大きく上回っており、読み取る力が十分に付いていると言える。	・さらに力を伸ばすために、登場人物の気持ちを読み取る際には、必ずその根拠となる行動や言葉などの叙述を明らかにさせたり、情景描写などからも考えさせたりする。また、読書活動を推奨し、多くの物語に触れさせる。
説明文の内ようを読み取る	・宇都宮市の平均正答率より下回っている。特に、段落のまとまりを考えながら読み取る問題では、宇都宮市より大きく下回っている。また、文章の内容を正確に読み取る問題では、宇都宮市よりもやや上回ってはいるものの、十分に定着しているとは言えない。	・段落ごとの要点をまとめたり、段落相互の関係をとらえたりする練習を繰り返し、力の定着を図る。また、段落のキーワードに着目させたり、文の主述をとらえさせたりすることにより、内容を的確に押さえることができる力を養っていく。
2つの新聞記事を読み取る	・宇都宮市の平均正答率より下回っており、他の問題の内容と比べてもその正答率はかなり低い。二つの文章を比べてその共通点や相違点を読み取る力に課題があると言える。	・二つの文章を比べて読む際に、比べる観点を与えて共通点や相違点をとらえさせるようにする。言葉で表現する活動を多く取り入れる。また、自分の考えと友達のことを比べたり、友達同士の考えを比べたりといった活動を意識して行わせる。
作文	・宇都宮市の平均正答率をやや下回っている。自分の意見と感想を区別して書くことに関しては、正答率が80%以上あり、おおむね定着していると言える。しかし、指定された長さや段落構成で文章を書く力はやや不十分である。	・文章を書くときの基本的なきまりを確認し、身に付けさせる。また、長さや段落構成などの与えられた条件の中で文章を書いたり、自分の意見や感想を区別して書いたりすることを繰り返し、書く力の定着を図る。